

|                                     |   |   |
|-------------------------------------|---|---|
| 児童・生徒の実態                            | <p>(1・2年)「読む」、「書く」など基礎学力が身に付いていない生徒が多い。「文章を読み、じっくり考え、他者に的確に伝える」といったことが苦手な生徒が多く、言語活動の充実が急務であると考えられる。家庭学習の習慣をもたない生徒の割合が高いが、「漢字コンテスト」等の努力の成果がはっきり分かる教育活動には、真剣に取り組む生徒が多い。</p> <p>(3年)授業に真剣に取り組もうとする姿勢は見られるようになってきたが、入試に対して「意欲的に取り組もうとする意識」が十分でない生徒もいる。そのため、一部の生徒の中には授業中の落ち着き足りない者や、提出物の提出状況も良いとは言えない者もいる。頑張ろうという意識はあっても、自分自身ではなかなか取り組めない傾向があり、向上はきわめて困難である。基礎的な学力不足は否めない。</p> |   |
| 重点<br>後期の                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律を確立させ、落ち着いた教育環境を整える。</li> <li>・「漢字コンテスト」等の取組を通しての反復学習の充実を図る。</li> <li>・朝読書、デイリーノートの記録部分を活かした、読み書き能力の育成を図る。</li> </ul>   |   |
| 担当学年                                | 課題  | 改善策   |
| 第1学年                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後につながる授業規律の確立</li> <li>・基礎・基本の定着</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・規律を守らせる為の声かけと意識づけ。</li> <li>・調べる学習コンクールの作品作りなど学習活動に意欲を持たせる教材教具の工夫。</li> <li>・日常的な漢字の反復学習を行い、確認の為の小テストを実施し、漢字の定着を図る。</li> </ul>                            |
| 第2学年                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律の確立。(一部生徒)</li> <li>・自分で考えて表現する力を伸ばす。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標提示と声かけをし、生徒一人一人が取り組む事柄を明確にし、真剣に授業を受けるための環境や雰囲気を整える。</li> <li>・「理解すること」と「表現すること」を関連づけた授業を展開する。また、生徒による発表の機会を多く設け、考える必要性をもつ授業を計画的かつ継続的に実践していく。</li> </ul> |
| 第3学年                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な学習内容の確認</li> <li>・作文等の表現能力の向上</li> <li>・高校入試に向けての学力補充と心構えの育成</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字・文法等における反復学習を日常的に行い、習慣化を図る。</li> <li>・集団討論、小論文を書くなど、表現能力の向上を目指す。</li> <li>・問題演習を行うなかで、学力の向上と同時に、高校入試に対する意欲を身に付けさせる。</li> </ul>                          |
| 知識・技能と<br>思考力・判断<br>力・表現力等<br>のバランス | <p>(課題) 1、2、3学年ともほとんどの観点で目標値に到達せず「言語の知識・理解・技能」「書く力」の値は特に低い。「硬筆書写」のような比較的単純な活動は取り組めるが、自分で読み、考え、書くことを面倒くさがる傾向がある。そのことが思考力、判断力、表現力の低さにつながっている。</p> <p>(取り組み)「自ら考え、書き、表現する」こと目的とした課題を工夫したり、小グループ学習を取り入れる。また総合の時間を活用し、事前・事後学習などの教育活動においても技能を高め、思考力・表現力を育てていく場とする。</p>  |   |
| 家庭との連携による学習習慣の確立                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の家庭学習ドリル(全学年で取り組んでいる)に取り組ませ点検する。三者面談や保護者会でも話題にし、保護者にもドリルの意義や効果を理解してもらい、家庭と連携して、取り組みの向上を図る。</li> </ul>   |   |
| 学びを深める学習ルール<br>の確立                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「時間を守る。妨害・迷惑行為はしない。集中して話を聞く。」等を重点目標とし、授業規律の確立に努める。</li> </ul>   |   |
| 成果と課題<br>(年度末に記入)                   |   |   |

## 平成24年度授業改善計画（中学校各教科担当）

|                         |  |  |
|-------------------------|--|--|
| 児童・生徒の実態                | 活発ではあるが、自分のやりたいことだけやりたいという傾向が強く、学習全体に対して拒否感がある。授業に地道に取り組もうという姿勢も今一步である。<br>自分とその周辺にだけ関心が限られ、社会・世界の出来事への関心に乏しい。 |  |
| 後期の重点                   | 授業への取り組みの基本事項（授業道具の確認・時間を守る・話を聞く・他に迷惑をかけない等）を身につけさせる。<br>生徒の興味を引く教材を準備し、社会・世界に対する関心を高める。                       |  |
| 担当学年                    | 課題   | 改善策  |
| 第1学年                    | 落ち着いて学習でき、作業等も楽しくできる。一部、学習全体に対して、投げやりな生徒もいる。   | 知識の教授のみに終わらず、人々の痛みと願いを感じながら自分たちの生き方へとつなげられる教材作りと授業方法。              |
| 第2学年                    | 1学年時よりは成長しているものの、学習しようという気持ちが薄い生徒がまだ多い。私語・立ち歩きもあり、授業規律が乱れがちである。教科書等も持たない生徒もいる。                                 | 授業への意欲と集中力を育むための生徒の学力に合った教材の工夫。プリントを使った基礎学力の定着。                    |
| 第3学年                    | 授業態度は良好になった。問題を解いて解答を得ることも喜びになっている。ただ、自分の成績・テストの点数のみを気にして、全体を考えられない生徒をまだ見受けられる。                                | 生徒にとって切実な1・2年の復習を含む受験対策から始め、社会・世界の諸問題の解決のための学習という、志まで持たせるための教材の工夫。 |
| 知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス | 社会科の学習は知識の獲得だけで良しとする生徒が多い。<br>世界・社会の問題を知り、解決し、世界・社会の主体者となっていくために、思考力・判断力・表現力が必要であることを認識させていく。                  |  |
| 家庭との連携による学習習慣の確立        | 家庭学習の習慣がある生徒は少ないと思われる。家庭内で、生徒の関心を社会・世界に広げる機会を持ってもらう。   |  |
| 学びを深める学習ルールの確立          | 授業規律の確立を全校で取り組み、支援員の協力も得る。授業道具の準備の確認。  |  |
| 成果と課題<br>(年度末に記入)       |  |  |

|                       |  |  |
|-----------------------|--|--|
| 児童・生徒の実態              | 意欲の面で課題を抱える生徒が多く、授業規律を最優先に考えざる得ない状況である。家庭学習の習慣がなかなか定着せず、反復学習が学校生活のみになってしまいがちである。また、文章理解力が欠けており自己学習をするにあたっての基本的スキルが十分に身につけていないため、個別指導には積極的になるが、集団指導となると投げ出してしまふことがある。 |  |
| 後期の重点                 | 計算コンテストを一つの柱に全学年計算力の向上を目標とするとともに、生徒同士の教えあいを充実させ、自分の考えをまとめ、伝える力の育成を図る。家庭学習の課題を確実にを行うように指導していくとともに、授業の中で発展的な問題について取り組む機会を電子黒板の利用を充実させ、図形の分野においては特に視覚的に理解しやすいよう指導を心がける。 |  |
| 担当学年                  | 課題   | 改善策  |
| 第1学年                  | 小学校段階の数量、図形についての習熟の差がかなりある。特に問題を読み取るなどの応用力、分数や小数の計算等も含めた複雑な計算力に欠ける。また、考えを整理し、発表することに課題がある。   | 宿題プリントやノートの活用により、自分の考えを書き出すよう指導をしていく。基本的計算力については時間を決め、繰り返し行い、定着を図る。また教え合いを取り入れられるよう指導していく。   |
| 第2学年                  | 個人差が到達度だけでなく、意欲でも大きい。スモールステップでの学習が全体的に必要な。また、自分の考えをまとめずに発表する場面が多く見受けられる。計算問題には比較的意欲的に取り組む。授業のみの学習が多く、家庭学習の取り組みが課題である。  | スパイラル学習を授業の始めに積極的に取り入れる。計算コンテストなどの取り組みにおいて、教え合いを取り入れながら基礎的な計算力をつけさせる。応用については、具体的に捉えやすい教材の準備を心がけ、あきらめさせない指導をさらに強化する。提出物の呼びかけをさらに強化する。 |
| 第3学年                  | 全体的にわからない問題に対して、解答を待つ傾向にある。既習事項を自ら使い、問題に取り組む姿勢があまりない。また提出物に関しての意欲が低い傾向がみられる。   | 質問への対応を自ら探すように促すような発問を意識するとともに、放課後の質問教室などを積極的に取り入れ、課題に取り組む機会を増やす。問題定着のためにスパイラルも積極的に取り入れていく。  |
| 知識・技能と思考力・判断力・表現力等の育成 | 解答のみではなく、考え方のプロセスを大切にさせ、ノートに書くように指導するとともに、間違えてしまった問題についてしっかりと考え直し、つまづいた場所を考え直すように指導する。また、黒板で問題を解くだけでなく、自分の考えを整理して発表する機会を増やす。   |  |
| 家庭との連携による学習習慣の確立      | 家庭学習の習慣がある生徒は少ない。塾等へ通っていてもそれで終わりと考えてしまう傾向がある。コンテストや宿題を通して家庭学習の材料を提供しつつ、保護者会等を通して家庭学習の確立を促してゆく。   |  |
| 学びを深める学習ルールの確立        | 授業、家庭学習での復習を一つの柱として、問題演習の時間においては習熟が早い生徒が時間のかかる生徒へのサポートを確立させ、ワークなどを自分のペースにより進めていく雰囲気を作る。また間違えた問題をそのままにしないよう、解き直しを行うように指導する。   |  |
| 成果と課題<br>(年度末に記入)     |  |  |

|    |    |    |       |
|----|----|----|-------|
| 理科 | 担当 | 氏名 | 鎌原 一恵 |
|----|----|----|-------|

|                         |   |   |
|-------------------------|---|---|
| 生徒の実態                   | <p>(1年) 発問や課題を深く考える生徒は数名いる。全体的に落ち着いて取り組んでいることが多い。一方で発言をほとんどせず、受動的な授業の受け方をしている生徒もいる。</p> <p>(2年) 授業中、自分で考えようとはするが、答えが出せなかったり、自信がなかったりするため積極的に発言することができない生徒がいる。また、自己中心的な行動をする生徒が十数名いるため、授業規律が成立しない場合も多い。</p> <p>(3年) 落ち着きがなく、学習に取り組まない生徒が数名いるが、多くは課題に取り組むことができる。できないことに対して積極的に発言や質問をしない生徒がいるため、身に付かないまま進むこともある。</p> |   |
| 後期の重点                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えるときは、全員が自分の考えを整理し、表現するためにノートに記入させる。わからない点などは、生徒同士で教え合う機会を設ける。</li> <li>・チャイムで始められるよう、机上に準備をするよう積極的に声がけを行う。</li> <li>・授業規律の徹底。(時間を守る、授業妨害をしない、など)</li> </ul>   |   |
| 担当学年                    | 課題  | 改善策   |
| 第1学年                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 自己表現力の向上。</li> <li>② 授業規律の確立。</li> </ol>   | <ol style="list-style-type: none"> <li>① ノートなどに自身の考えを書かせる。ノートに記入することに慣れさせる。</li> <li>② 書く時間、聞く時間、など生徒自身が今何をやる時間なのか、はっきりと示す。</li> </ol>                          |
| 第2学年                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業規律の確立。</li> <li>② 興味を引く教材の工夫。</li> </ol>   | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 目標の提示や授業のルール確認を行う。書く・聞く時間の提示、授業のポイントの確認を徹底的に行う。</li> <li>② 興味関心を高める教材の開発を行う。</li> </ol>                                |
| 第3学年                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 自己表現力の向上。</li> <li>② 生徒実験をできるだけ行う。</li> </ol>  | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 基本的な内容から確認をしていき、生徒自身が課題について論理的に考える展開をする。</li> <li>② 目的・方法などを全員が理解したうえで班で協力した操作を行うようにする。ノートに書かせることによって理解を促す。</li> </ol> |
| 知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら自然現象について考えて仮説をたて、実験を行い、考察をする。という一連の流れに取り組みせる。少人数の班で協力できるような活動を一斉授業のなかでも取り入れていく。また、生徒同士の討論の場を作るようにする。</li> </ul>   |   |
| 家庭との連携による学習習慣の確立        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの現象について積極的に授業で扱うことで、生活に生きた理科になる。理解していないと人に説明はできないため、家庭で話を聞くことをお願いする。</li> <li>・全学年、一定の内容を終えたときに問題集に取り組みせている。3年はそれに加えて総まとめ問題集に取り組んでいる。</li> </ul>  |   |
| 学びを深める学習ルールの確立          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞く、書く、発言をする、という時間をメリハリがつけられるように、生徒間、教職員間で協力していく。</li> <li>・授業妨害(私語・立ち歩きなども含む)がなくなるよう、意識を改善していくよう繰り返し指導していく。また、学年・学校で協力して授業妨害を改善するように取り組みを続けていく。</li> </ul>  |   |
| 成果と課題(年度末に記入)           |   |   |

|                       |   |   |
|-----------------------|---|---|
|                       | <p>学習する習慣が身に付いていない生徒が多数いて、学習したことがなかなか定着しない。英語が好きでないとか、英語を勉強する必要性を見つけないことができない等から学習する動機付けが弱い。また、学習への意識が低い生徒が多いことからクラス全体がだんだん悪い方に感化されてしまっている。</p>                             |   |
| 後期の重点                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の定着を図る。</li> <li>・英語が読めて、その意味がわかるようにする。</li> <li>・英文を聞き取り、その概要を理解することができるようにする。</li> <li>・英語検定を受検する生徒を増やす。</li> </ul>          |   |
| 担当学年                  | 課題  | 改善策   |
| 第1学年                  | <p>全体的には意欲的に授業に参加している。特に言語活動には積極的に取り組んでいる。しかし、学習の動機付けのレベルがあまり高くない。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・段階的に確認テストを行う。</li> <li>・基本文の定着を図るために、繰り返し、繰り返し練習させる。</li> <li>・興味・関心をもたせるように工夫する。</li> </ul>                                  |
| 第2学年                  | <p>学習の基礎基本がほとんど身に付いていない生徒が相当数見られる。とりわけ書く力が不足しておりノートにまとめる作業を不得手とする。クラスの中で、既習の単語や文法事項の定着にばらつきがあり、力量の差が大きい。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム的活動や単語練習に力を入れ、苦手意識を少しずつ軽減させる。</li> <li>・ノートの提出回数を増やし、単語や英文を書く習慣づけを図る。</li> <li>・同じクラスの中でも発問や指名で工夫し個に応じた指導を心がける。</li> </ul> |
| 第3学年                  | <p>昨年度と比較すると、全体的に学習に取り組む姿勢がよい方向に変化してきているが、基本的なことが理解できていない生徒が多い。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークブックを用いて、1, 2年の内容の定着を図る。</li> <li>・高校受験を視野に入れて、学習する動機付けのレベルをあげる。</li> </ul>   |
| 知識・技能と思考力・判断力・表現力等の育成 | <p>知識・技能を身に付けさせることが最優先であるが、そこをきちんと通過できないので、前に進むことができない。表現力と知識・技能のバランスがとれるように、言語活動を通してコミュニケーション能力を高めていく必要がある。</p>  |   |
| 家庭との連携による学習習慣の確立      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習が身に付いていない生徒に対しては、三者面談などを通して適切な助言をして、家庭学習の習慣化を手助けする。</li> <li>・定期考査の前に学習計画表を作って、自分の学習状況を把握できるようにする。それを保護者の方に確認していただく。</li> </ul> |   |
| 学びを深める学習ルールの確立        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイム着席</li> <li>・忘れ物チェック</li> <li>・復習、予習の励行</li> </ul>  |   |
| 成果と課題<br>(年度末に記入)     |   |   |

|       |    |        |
|-------|----|--------|
| 音楽 担当 | 氏名 | 木村 奈津子 |
|-------|----|--------|

|                       |   |   |
|-----------------------|---|---|
| 児童・生徒の実態              | <p>(1年) 落ち着いて授業に取り組み、まじめに努力する姿勢がみられる。活発な意見も多く、授業を活気づけてくれる。練習課題も熱心に行っている。</p> <p>(2年) 授業に対する意欲のある生徒とない生徒の差が顕著に表れている。意欲に欠ける生徒の特徴として、最初から取り組もうとしないことや、話を素直に受け止めることができないことがみられる。</p> <p>(3年) 活発で元気な生徒が多い。歌唱指導では、元気な歌声が響き渡る。与えられた課題をまじめに取り組もうとする生徒も多い。</p> |   |
| 後期の重点                 | <p>(1年) これまでの落ち着いづいた授業環境を保たせる。お互いに声を掛け合って、さらに上を目指そうとする気持ちを持たせる。</p> <p>(2年) 授業への取り組みの基本事項(時間を守る、忘れ物をしない、話を聞く)を身に付けさせる。</p> <p>(3年) 活発な活動を持続させながら、落ち着いて話を聞き積極的に音楽に関わろうとする態度を伸ばす。</p>   |   |
| 担当学年                  | 課題  | 改善策   |
| 第1学年                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱の面では周囲を気にして、少し元気の良さに欠ける。</li> <li>・生徒同士の活動の中で、お互いに声を掛け合う姿が少ない。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な活動を通して、自信を持たせることにより、さらに活発な活動につなげる。</li> <li>・生徒の人間関係も良好なので、リーダーを育てることにより、お互いに成長させる。</li> </ul>             |
| 第2学年                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に対する意欲のある生徒とない生徒の差が非常に顕著に表れている。</li> <li>・忘れ物をする生徒が多い。</li> <li>・男女のバランスが悪く、混声合唱を作り上げるのが難しい。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の規律を再度徹底させ、落ち着いて授業に向かう雰囲気を作る。</li> <li>・担任の先生と協力をして、忘れ物をしないよう声かけを行う。</li> <li>・女子が歌いやすいような工夫をする。</li> </ul> |
| 第3学年                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いて話を聞いて、内容を深めようとする姿勢に欠ける。</li> <li>・お互いに声を掛け合う姿はあまり見られない。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し落ち着いて授業ができるようになるまで、机を用いた授業形態で行う。</li> <li>・リーダーを活用して、生徒が中心となって合唱練習ができるような工夫をする。</li> </ul>                |
| 知識・技能と思考力・判断力・表現力等の育成 | <p>授業計画では、生徒の実態に応じた理解しやすい授業の内容と進め方の工夫を図る。偏りがないう、また知識を表現に生かせるように、系統的に指導を行う。</p>  |   |
| 家庭との連携による学習習慣の確立      | <p>授業での問題となる点や、家庭への連絡が必要と思われる内容に関しては、担任の先生との連絡を密に取りつつ、家庭への連絡協力を仰ぐ。</p>  |   |
| 学びを深める学習ルールの確立        | <p>授業規律(チャイム着席、忘れ物、授業を受ける姿勢、言葉遣い等)の確立を目指す。</p> <p>学習支援指導員の支援を利用する。</p>  |   |
| 成果と課題(年度末に記入)         |   |   |

|                       |   |  |
|-----------------------|---|--|
| 児童・生徒の実態              | 授業を意欲的に取り組む生徒が多いが、集中力が長続きせず問題行動を起こす生徒がいる。<br>また苦手意識から学習意欲をなくしている生徒もいる。                    |  |
| 後期の重点                 | 生徒にとってわかりやすい授業作りをすることで、課題を理解し、アイデアを考えやすくする。<br>また、学年などの協力を得ながら問題行動に対応する。                  |  |
| 担当学年                  | 課題  | 改善策  |
| 第1学年                  | 授業中落ち着きがなく、私語が多い。また、集中が欠如している。<br>作品はおもしろいアイデアを考える生徒が多い。                                  | 今は何をすべき時かを、細かく指示し、切り替えをさせる。<br>イメージを具体化することはできるため、能力の向上を目指し、繰り返し指導を行う。 |
| 第2学年                  | 授業中の抜け出しや、出歩きなどの問題行動が目立つ。<br>また、理解力が不足している。   | 学年と協力しながら授業規律の確立を目指す。<br>授業内容は、わかりやすく見通しを立てやすくする。<br>また、参考作品などを準備する。   |
| 第3学年                  | 多くの生徒が授業に集中して取り組んでいるが、全体的に低学力である。   | 低学力の生徒への指導として、支援員などを活用する。<br>また繰り返し指導し、指導内容を定着させる。                     |
| 知識・技能と思考力・判断力・表現力等の育成 | 課題に入る際、参考作品を準備し、見通しをつけやすくさせる。<br>そして、オリジナルのイメージがつきやすいように、技法などの基礎をしっかり学習させ、助言や資料を見せる指導を行う。 |  |
| 家庭との連携による学習習慣の確立      | 宿題等から、保護者への学習理解を求め、生徒の学習意欲を高めるよう家庭と協力する。  |  |
| 学びを深める学習ルールの確立        | わかりやすい授業作りに努める。<br>繰り返し説明し、机間指導、細かく丁寧な指導を行う。<br>今すべきことを明確にし、切り替えをさせる。                     |  |
| 成果と課題<br>(年度末に記入)     |   |  |

|                         |  |   |
|-------------------------|--|---|
| 生徒の実態                   | 集中力に欠け落ち着きがない生徒が多い。学年により差もあるが、作品の製作に意欲を持って取り組めない者が少なくない。<br>話を聞く態度、授業に対する基本的な姿勢が十分ではない。                                |   |
| 後期の重点                   | 落ち着いた雰囲気で行うため、授業の最初の導入を大切にしていきたい。<br>作品製作における個別指導を強化していきたい。  |   |
| 担当学年                    | 課題   | 改善策   |
| 第1学年                    | 授業で学んだ知識を生活の上でどのように使っていくか、思考的な分野の強化が必要である。   | 思考的な発問で考える授業を行っていく。<br>提出物の徹底を何度も指導する。                          |
| 第2学年                    | 授業への参加意欲に乏しく、作品製作への意欲が低い。一部生徒は積極的に取り組んでいる。   | 説明書を読めない生徒が多いので、より分かりやすい製作手順の説明を行っていく。作品製作が遅れている者への個別指導も強化していく。 |
| 第3学年                    | 基礎知識の不足、話を聞く力の不足が課題である。  | 繰り返しによる基礎知識の定着。説明も繰り返し行うことにより、全体の作業が滞りなく行えるよう配慮する。              |
| 知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス | 基礎的な知識の習得を徹底すると共に作品を製作していく中で、個人個人が自分自身の作品に対する問題にぶつかり、その問題を解決するためにはどうしたらいいのか考えさせると同時に、進度の速い生徒と助け合い学習を行うことで、個人の技能を向上させる。 |   |
| 家庭との連携による学習習慣の確立        | 授業で学んだ知識を家庭での生活に活かす機会を見つけ、実践する力を強化する。その繰り返しで知識の定着をはかる。   |   |
| 学びを深める学習ルールの確立          | 実習中は教員だけでは、すべての生徒に対応しきれないので、進度の速い生徒、技能の高い生徒に先生役になってもらい助け合い学習を行う。<br>また学校支援員の協力も仰ぐ。                                     |   |
| 成果と課題<br>(年度末に記入)       |  |   |



|                       |  |  |
|-----------------------|--|--|
| 児童・生徒の実態              | 各教室でのプリント学習ではほとんどの生徒が自分の席に座りプリントの記入をし提出していた。しかし、被服実習では被服室といういつもと違う場所での解放感からなのか、授業に集中して取り組めない生徒が多数いた。毎時間、集中して授業に取り組んでいる生徒もいるので一人一人の進度の差が大きく開いている。 |  |
| 後期の重点                 | 実習が中心になるので使用する用具の危険性を十分に理解し安全に又衛生的に行えるようにする。又、被服実習では作品を完成させるという事を目標に一人一人の進度を見極め個別に対応する。  |  |
| 担当学年                  | 課題   | 改善策  |
| 第1学年                  | 基礎的な技能を正しく習得する。<br>基礎的な知識をしっかりと身に付けさせる。  | 実習前の説明を十分にし、実習により実際に行うことでより技能や知識を身に付けられる。          |
| 第2学年                  | 被服の制作を自分自身で最後まで完成させるという意識を持つ必要がある。<br>用具の安全な取り扱い、危険性を確認させる必要がある。   | 一人一人の進度に合わせて個別に対応する。<br>用具類の危険性を繰り返し説明する。          |
| 第3学年                  | 今までの学習内容をもとに保育分野の学習で発展させていくということを理解する必要がある。広範囲にわたっての学習なので毎時間の授業に集中して取り組む必要がある。   | 実習前の説明を十分にし各自に実践させる。<br>個々の考え、工夫したことなどを発表する機会を与える。 |
| 知識・技能と思考力・判断力・表現力等の育成 | 学習した内容を作品制作に取り入れ一人一人の個性を表現できるようにする。  |  |
| 家庭との連携による学習習慣の確立      | 生活に関連深い教科なので授業で学んだ知識をいかに家庭生活に生かせるかを具体的な方法を取り上げ理解させる。   |  |
| 学びを深める学習ルールの確立        | 何をするか理解できずにいると実習では動けないので十分な説明の上での実践を意識し個々の理解を深める。  |  |
| 成果と課題<br>(年度末に記入)     |  |  |

|                                     |  |  |
|-------------------------------------|--|--|
| 生徒の<br>実態                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に授業に参加している生徒が多い。</li> <li>・水泳の授業では、他の単元に比べ忘れ物や見学が増加する。</li> <li>・昨年度に比べ、集合時間、話を聞く姿勢等、規律を守れるようになってきている。</li> </ul> |  |
| 後期の<br>重点                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる授業規律の確立</li> <li>・生徒の興味・関心を引き出す授業の展開</li> </ul>   |  |
| 担当学年                                | 課題   | 改善策  |
| 第1学年                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎体力の向上。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランメニューや補強を導入時に入れ、基礎体力の底上げを図る。</li> <li>・授業における運動量を増やす。</li> </ul>      |
| 第2学年                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・忘れ物の減少。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーを中心に、帰りの学級活動での呼びか。</li> </ul>                                      |
| 第3学年                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的な活動の育成。(指示待ちではなく、自ら行動できる生徒)</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の課題練習等の時間を設け、その中で自ら考え、自主的に活動ができるかを見ていく。また、授業終了前に活動の反省を行う。</li> </ul> |
| 知識・技能と<br>思考力・判断<br>力・表現力等<br>のバランス | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育学習カードを用い、生徒がどれだけ単元に対して考えているのか、理解しているのかを知る</li> <li>・グループワーク等、課題に対して考える時間の設定。</li> </ul>                            |  |
| 家庭との連携に<br>よる学習習慣の<br>確立            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・忘れ物が多い生徒には担任を通じて家庭連絡をしてもらい、体育の授業に参加させるよう家庭からの協力を得る。</li> </ul>   |  |
| 学びを深める<br>学習ルールの<br>確立              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律を確立し、規律を守れない生徒に対しては指導を徹底していく。集合時間、説明時の私語、活動中のふざけ合い等</li> <li>・学習環境を整える。(服装を正すことや活動場所の整備の徹底)</li> </ul>           |  |
| 成果と課題<br>(年度末に記入)                   |  |  |

|                                     |  |   |
|-------------------------------------|--|---|
| 生徒の実態                               | <p>(1年) 発問に対する発言、グループ活動、授業態度など、積極的に取り組む様子がみられる。体力・運動能力が二極化している。</p> <p>(2年) 少人数でお互いのことを理解し合いながら授業に取り組む様子がみられる。運動習慣や運動への意欲が二極化している。</p> <p>(3年) 体力・運動能力の高い生徒が多い。全体的には自主的に授業に取り組む様子がみられる。座学では、やや消極的になることがある。</p>                                   |   |
| 重点<br>後期の                           | <p>(1年) 体力・運動能力が二極化の改善。</p> <p>(2年) 運動習慣や運動への意欲が二極化の改善。</p> <p>(3年) 座学の授業に対する態度の改善。</p>  |   |
| 担当学年                                | 課題   | 改善策   |
| 第1学年                                | ・体力・運動能力を向上させること。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の特性に即した準備運動や補強運動を継続的に行う。</li> <li>・体づくり運動を軸に、体力の必要性や高め方を知的・実践的に学習させる。</li> </ul>          |
| 第2学年                                | ・運動への意欲を向上させること。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各運動領域においては、それぞれの特性を味わえるような指導をする。</li> <li>・体づくり運動、体育理論を軸に、運動の効果について知的・実践的に学習させる。</li> </ul> |
| 第3学年                                | ・保健、体育理論の授業を充実させること。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な資料提示をし、個人生活や社会的な事象などにに基づきながら考えさせたり、意見交換させたりする。</li> <li>・運動領域と関連付けて学習させる。</li> </ul>     |
| 知識・技能と<br>思考力・判断<br>力・表現力等<br>のバランス | <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識、技能、思考・判断に関する学習内容を明確にする。</li> <li>・単元を通して、特に前半は基礎的・基本的な知識・技能の習得をねらい、後半はそれらを活用させる（思考・判断する）学習場面を設定し、学習内容を深化させる。</li> <li>・学習カードを利用して、それらの学習過程を記録させることで、学習内容の定着を図る。</li> </ul>                            |   |
| 家庭との連携による学習習慣の確立                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容の定着状況、授業への取り組みの様子など、家庭への連絡が必要と思われる場合には担任の先生と相談の上、家庭への連絡・協力を仰ぐ。</li> </ul>  |   |
| 学びを深める<br>学習ルールの<br>確立              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律（時間、忘れ物、話を聞く姿勢、安全上の留意点など）を常に確認する。</li> <li>・単元ごとに、1時間の授業の流れ（集合場所、準備、準備運動、片付け、安全面など）について確認する。</li> <li>・グループ学習などでは役割分担を明確にして、積極的な学習態度を持たせる。</li> <li>・学習カードを記録、提出させる。</li> <li>・体育委員と連携する。</li> </ul> |   |
| 成果と課題<br>(年度末に記入)                   |  |   |